

誰かの一步につながる ニュースや番組を、 届けていきたい。

教職から放送へ
志望を転向。
進みたい道を切り拓く。

小学生の頃から好きだったバスケットボールに関わる仕事に就きたいと考え、保健体育教員をめざして愛知淑徳大学に入學。教職課程の学び、女子バスケットボール部での活動、小学校でのボランティア活動などに力を注いだ学生生活でした。

転職が訪れたのは3年次、ケガで1年間も運動ができなくなったときのことです。挫折を味わうなか、偶然、テレビでプロバスケット選手のドキュメンタリーを観ました。ケガを乗り越える姿に励まされると同時に、「一人に何かを伝え、何かが変わるきっかけを届ける」仕事に魅力を感じ、放送業界を志望するようになりました。

キャリアセンターを活用しながら就職活動を進め、卒業後は名古屋テレビ放送

(メ〜テレ)へ。配属当初から報道局の記者として、さまざまな現場に足を運び、さまざまな人の声に耳を傾けて、数多くのニュース映像を制作してきました。1年目は遊軍記者として政治・経済・社会・文化などあらゆる分野を担い、2年目からは愛知県警を担当して事件・事故などを追い、5年目からは医療教育を担当。現在も医療機関や学校などでの取材を重ねています。

よりよい未来を見据え、
「今」を伝える。

入社6年目頃からはディレクターとして長尺番組も制作しています。2025年3月放送の「メ〜テレドキュメント 救いの時差」ある小児がん医師の呻吟」では、欧米などですでに承認・使用されている新しい薬が日本では使えない「ドラッグロス」の問題を取り上げました。日本では治療

法のない神経芽腫と闘う2人の女の子や

ご家族、小児科医の先生などに長期間にわたり取材し、国が違うことで医療に時差が生まれてしまっている現実を直視。日本でも新薬開発が加速し、一人でも多くの子どもたちが救われるようにとの願いを込めて番組制作に励みました。この番組はアジア・太平洋放送連合番組コンクールのテレビドキュメンタリー部門で最優秀賞であるABU賞を受賞。取材にご協力くださった皆さんの思いが届いたのだと感謝の気持ちでいっぱいになりました。受賞をきっかけにドラッグロスの現状を多くの人に知っていただけたら嬉しく思います。

今後とも初志を貫き、発信力を磨いて「伝える仕事」に邁進していきます。愛知淑徳で学ぶ皆さんも、興味があることにどんどんチャレンジし、自分が進みたい未来へ一步を踏み出してください。



在学中、女子バスケットボール部に4年間所属。仲間と力を合わせ、自分たちで練習メニューを考えて練習試合や大会に臨みました。



2025年9月、モンゴルで開催されたアジア・太平洋放送連合番組コンクールの授賞式に出席。栄誉ある賞をいただき感謝しています。

名古屋テレビ放送株式会社
記者(株式会社名古屋テレビ映像所属)

小澄 珠里さん

愛知淑徳大学健康医療科学部スポーツ・健康医科学科を2018年3月に卒業。同年4月より名古屋テレビ報道局ニュース情報センターの記者として活躍するとともに、ディレクターとしてドキュメンタリー番組の制作にも携わる。プライベートでは8ヶ月の男の子の母。